

Translation: Final Frontier for Artificial Intelligence?

小田 真
(毎日新聞社英文毎日室)

昨今、人工知能 (artificial intelligence -- AI) の開発が進展し、インターネット上で「AIによって10年後なくなる仕事」などという特集記事が多数みられる。そのなくなるであろう職種の中に「翻訳者」も含まれる。

これまでは、翻訳ソフト等を用いた日英機械翻訳による文章は極めて拙劣なものが多く、意味が全く分からないものもあり、「文章の意味を解釈し、自分の言葉で再現するという能動的な作業はコンピューターでは到底無理」「熟練した人間の翻訳者に頼らざるを得ない」などと言われてきた。

特にニュース日英翻訳の場合、私がこれまでの本学会における研究発表やニュース英語をテーマにしたシンポジウムでも述べたように、日本語のニュース記事と英語のそれではスタイル、論理の流れが全く異なり、そのまま訳したのでは英文ニュース記事にはならない。

ここでは紙面の関係で日英のニュース実例は割愛するが、日本語のニュース記事のスタイルは、リードでニュースの概要を説明し、後の段落で詳細な情報を加えて繰り返し述べるという「循環型」の流れだが、英文ニュースでは、このような同じ情報の繰り返しは極力避け、論理がまっすぐに流れていく「直線型」の流れになっている。英文記者が「循環型」の日本語記事を「直線型」の英文記事に翻訳過程で変換しなければ、特に英語を母国語とする読者にとっては大変読みづらい文章になる。

英文記者の仕事は、原文を「訳す」というよりは、原文を取材したネタと考えて、その内容を十分理解した上で、英文ニュースのスタイルに従って自分の言葉で書くことである。ここが、他の分野の翻訳、例えば出版翻訳、特許翻訳、技術翻訳などと大きく異なる点である。

従ってニュース翻訳は、一般の翻訳会社に外注しても、編集部で大幅な書き直しが必要となる。論理の流れやスタイルを根本的に直すのは、もつれた糸をほどいて編み直すような作業となる。それならば英文記者が最初から翻訳した方が早い。ニュース翻訳は英文記者にしか出来ない仕事である。

英文記者が機械翻訳に取って代わられる時代が来るかということは、AIがどのように発達していくかを見る必要があるだろう。中国語でコンピューターは「電腦」と表記するそうだが、従来型のコンピューターは人間の頭脳の機能には程遠く、能動的な思考は全く出来ない。最終的に判断を下すのはあくまでも人間である。私には技術的なことは分からないが、AIは従来のコンピューターソフトとは全く概念が異なるようだ。AIは自ら能動的に考え、行動出来る技術らしい。AIは人間のように「心」を持つことが出来るという説もある。俄かに信じがたいが。

そうであれば、AIによりニュース翻訳をこなす時代は来るであろう。AIを駆使すれば人間の英文記者と比較して遥かに迅速にニュース翻訳を行うことが出来るようになるだろう。人件費など経費の関係上、利益を生み出すことが困難な英文媒体を持つ報道機関は大手新聞社、通

信社などに限られている。だが、AIにより小規模な報道機関も英文媒体を持ち、積極的に海外発信する時代が来るかも知れない。また、英語のみならず、フランス語、中国語など多くの主要言語での海外発信が可能になるかも知れない。

だが、徹底的に **clarity** を要求されるニュース記事でも、時間的制約等のため曖昧さや誤解を招くような表現が散見される。代名詞は何を示すのか、また主語を省略することの多い日本語の場合、主語を類推する必要もある。ここが誤訳の原因にもなっている。人間が開発するAIも思考力については人間以上のものにはならないのではないか。少なくとも人間の書いた不完全な文章の穴埋めをするような能力を持つのは難しいのかも知れない。

したがって、AIがニュース翻訳をこなせるようになって英文記者に取って代わる時代が来ても、翻訳原稿を原文と照らし合わせてチェックし、必要に応じて原文の書き手に確認をし、修正を加えるという仕事は人間にしか出来ないであろう。これは実務翻訳においても同じことと言えよう。